

## 論文審査の要旨

報告番号	甲 第 3103 号	氏名	森川 友喜
論文審査担当者	主査 中牧 剛 教授 副査 本田 一穂 教授 副査 内田 直樹 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>維持期の血液透析 (HD) 患者におけるエリスロポエチン治療に対する低反応性は生命予後不良との関連が報告されているが、HD 導入期での検討は行われていない。本研究は当院で HD 導入となった 154 例を対象とする後向きコホート研究である。対象症例のうち男性は 112 例、HD 導入時年齢の中央値は 68 (61-76) 歳、観察期間の中央値は 1204 (846-1839) 日である。1 週間当たりの遺伝子組み換えヒトエリスロポエチン量を体重 (kg) と Hb (g/dl) で割った値をエリスロポエチン抵抗性指数 (erythropoietin resistance index: ERI) とし、ERI と各因子との相関、HD 導入後の生命予後との関連について検討した。ERI と各因子との相関を重回帰分析で評価し、性別 (女性)、血清フェリチン値が有意な正の相関、血清トランスフェリン飽和度、body mass index が有意な負の相関を示した。観察期間内の死亡は 25 例 (感染症 8 例、心疾患 2 例、その他 15 例) で、Cox 比例ハザードモデルを用いて多変量解析を行った結果、ERI は HD 導入時年齢、カテーテル導入、血清 CRP 値とともに全死亡リスクと有意に関連した。本論文は HD 導入期の ERI 高値が生命予後不良と関連することを初めて示した点で学術上価値があり、学位論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名：血液透析導入期のエリスロポエチン抵抗性指数と導入後の生命予後との関連</p> <p>掲載雑誌名：昭和学士会雑誌 第 79 巻 第 5 号 2019 年 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)